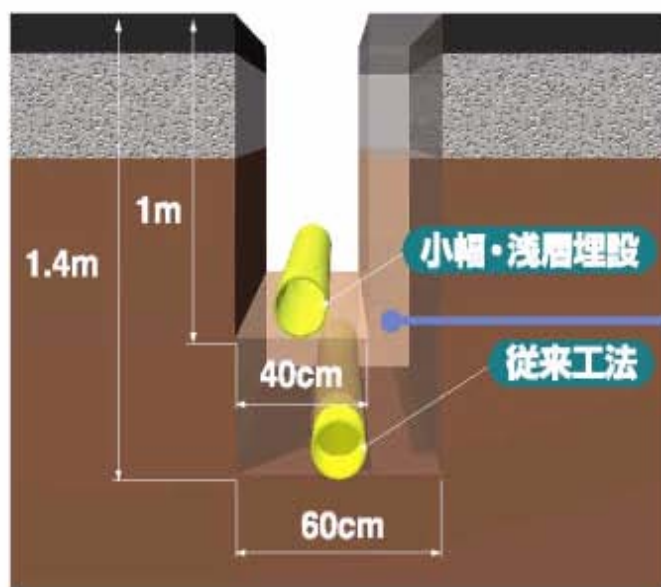


浅層小幅埋設工法

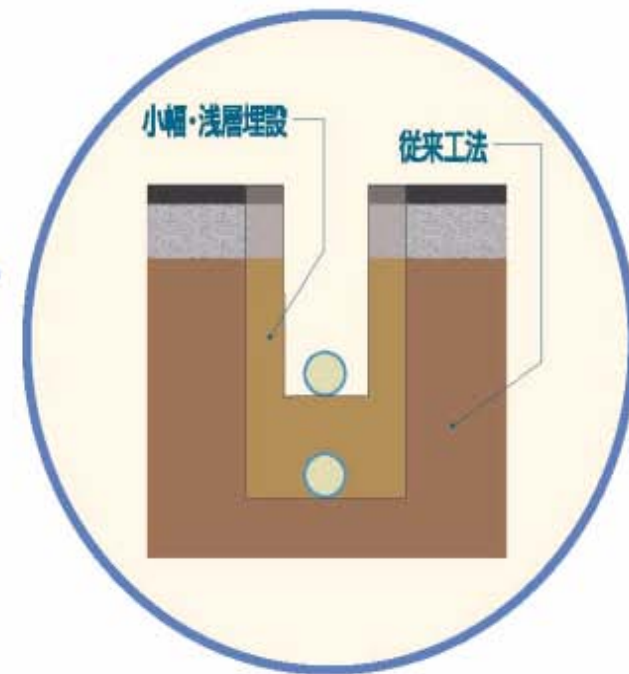
従来より浅層・小幅で埋設し、掘削土を削減



従来工法との比較例



従来工法	$0.6\text{m} \times 1.4\text{m} = 0.84\text{m}^3/\text{m}$
小幅・浅層埋設	$0.4\text{m} \times 1.0\text{m} = 0.40\text{m}^3/\text{m}$
排出土量削減分	$= 0.44\text{m}^3/\text{m}$

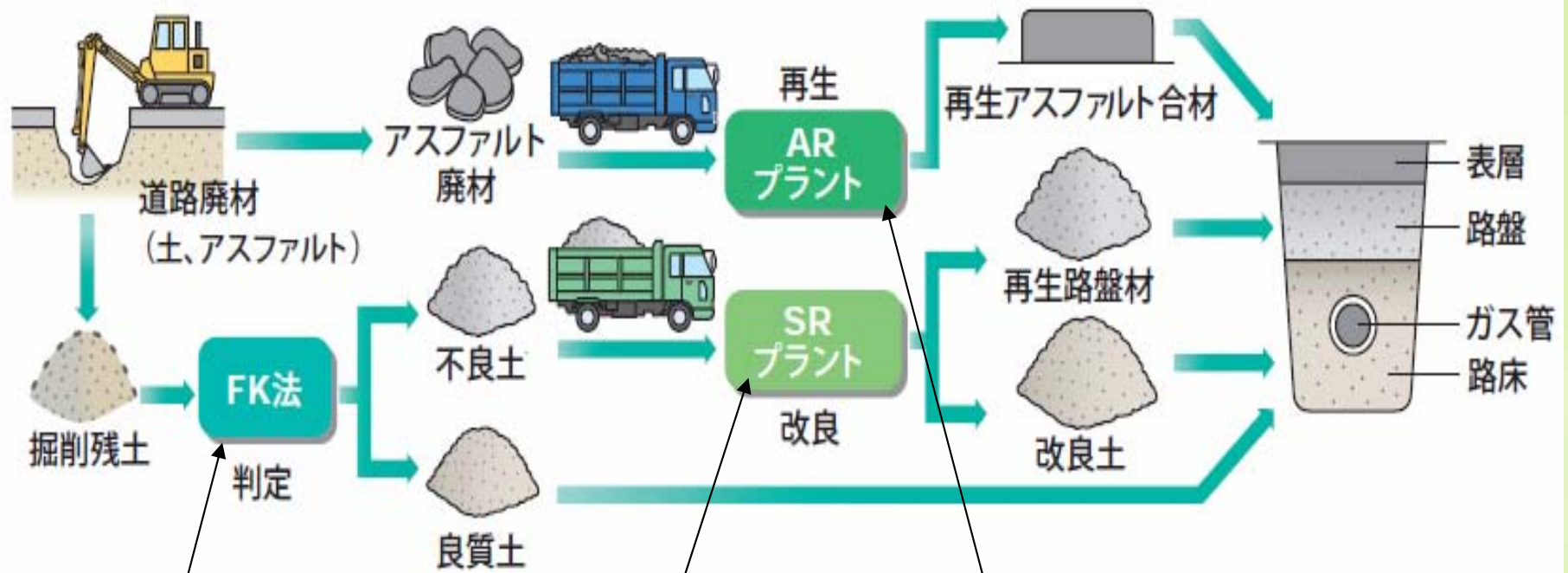


発生土
約50%減

行政への提案、ガス管の材料特性や接合技術の向上などにより実現

発生土のリサイクル

掘削土の再生利用技術を開発・導入



ふるい分け簡易判別法

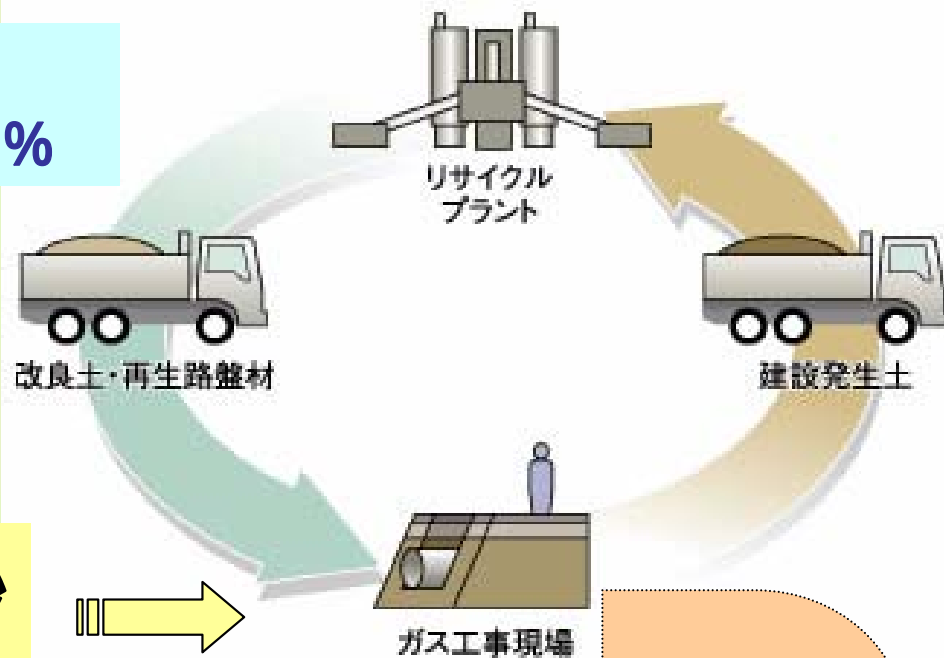
掘削土再生

アスファルト再生

導管工事掘削土の3Rの状況

Recycle

発生土の
リサイクル 22%



新規土砂
67%減

Reuse

発生土の再利用 7%
・発生土の埋め戻し

Reduce

発生土の削減 38%

<削減内訳>

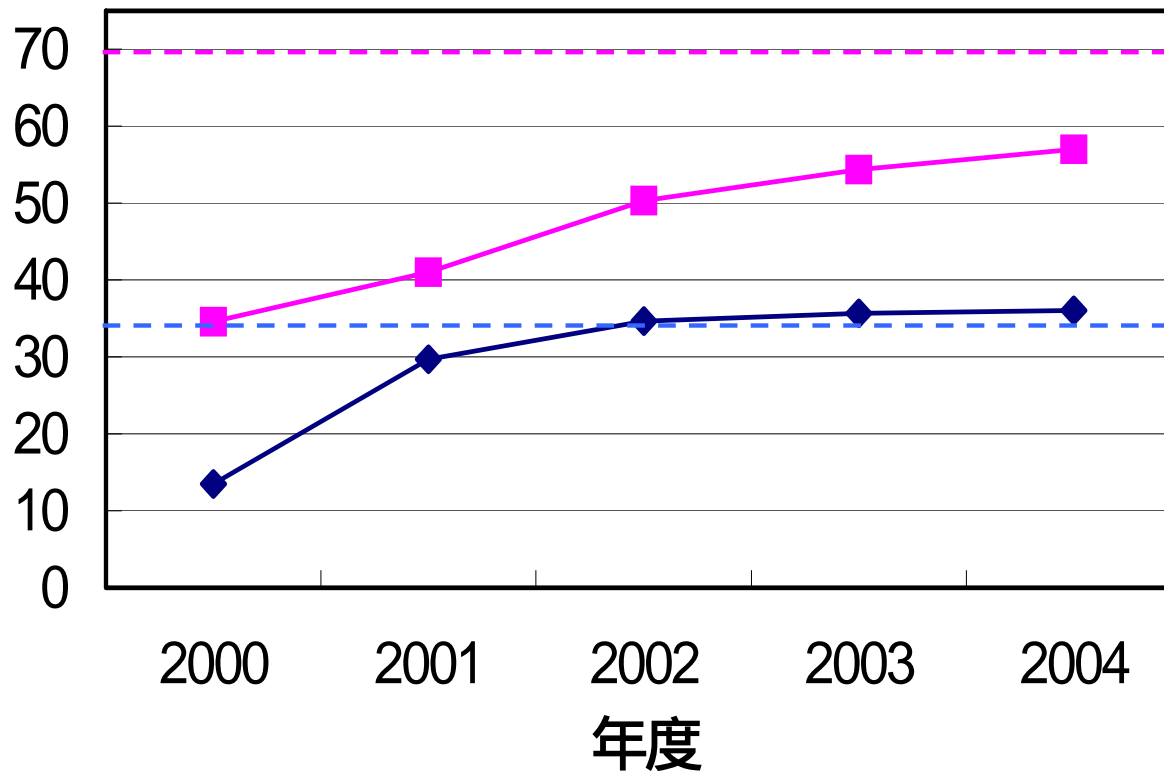
- ・非開削工法 9%
- ・浅層小幅埋設法 76%
- ・その他 15%

従来の発生土量を100とした割合

(2004年度)

掘削土削減の達成状況

掘削土削減率、再資源化率ともに向上

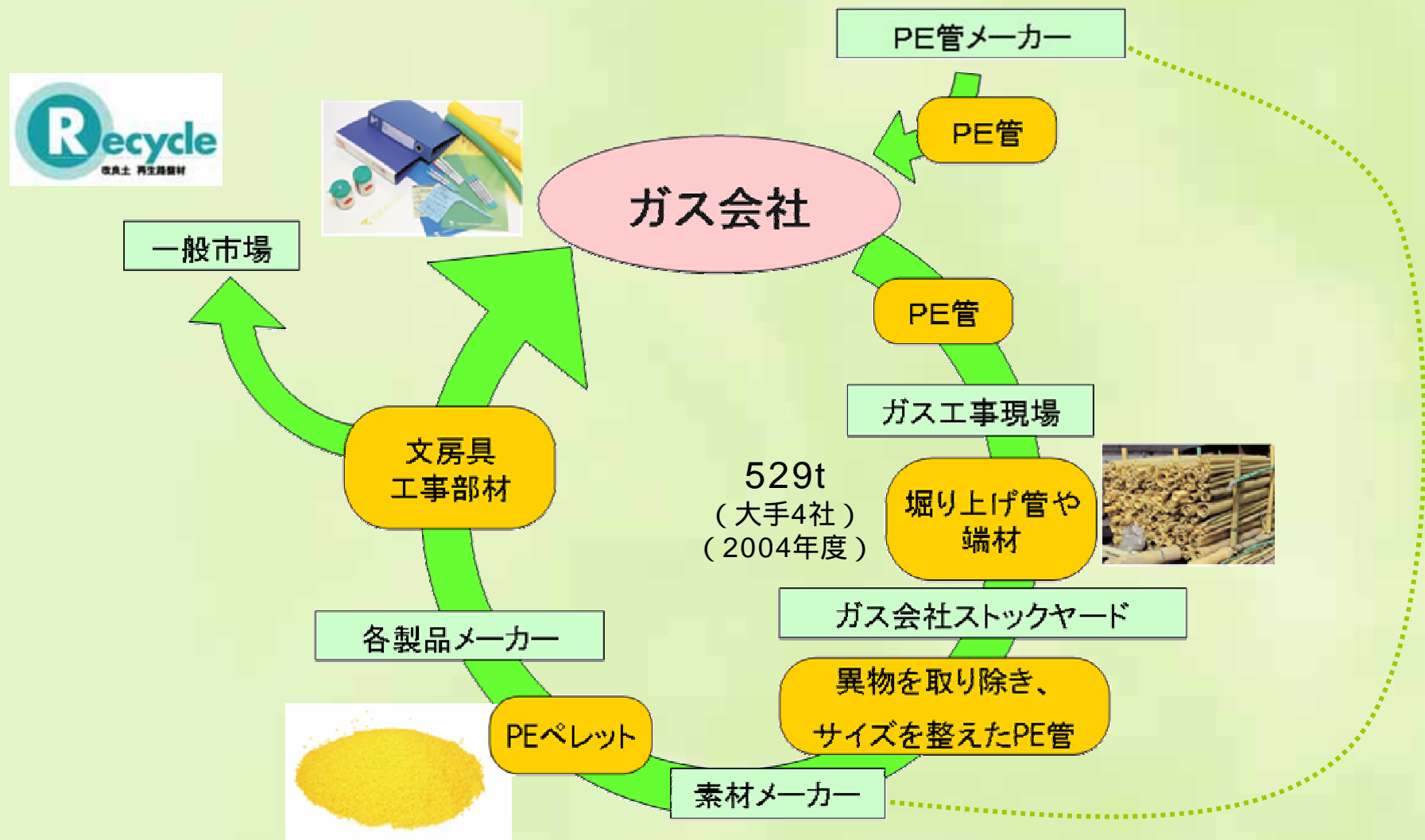


2010年度再資源化率目標

2010年度掘削土削減率目標

(3) 廃ガスのリサイクル

- ガス事業者がポリエチレン管(PE管)サプライチェーン関係者へ働きかけてリサイクル体制を構築



1999年度より全量を再資源化して利用(大手4社)